

公表

事業所における自己評価総括表【児童発達支援事業】

○事業所名	株式会社ルネサンス 元氣ジムJr.東戸塚		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 12月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 12月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもが安心感を持ちながら、楽しく通所できている。 (児童、保護者の満足度が高い)	・子ども達が楽しく遊びながらいろいろな動きに挑戦できるような環境の設定や声掛けを徹底している。 ・支援中の様子を動画で保護者に共有したり、毎回フィードバックの時間を設け、口頭で共有している。	・毎回の朝礼、終礼時に子ども達の状況を職員間でしっかり共有し、より良い支援ができるように考えていく。 ・子ども達が楽しくいろいろな活動に参加できるようにプログラムや声掛けを工夫していく。 ・引き続き保護者と連携しながら支援をおこなっていく。
2	職員の配置数は適切である。	・支援にかかわる職員全員が児童指導員、教諭免許取得者に配置している。 ・定員10名に対し、児童指導員2名という国の人員配置基準を常に満たし、なるべく子ども3名に対し、職員が2名以上になるように配置している。	・常時、子ども3名に対し職員が2名は配置できるように随時職員の募集をし、人員の確保に努める。 ・職員の質の確保のため、定期的な研修を実施し、事業所全体で子どもの特性や保護者支援など、療育に関する知識を深めていく。
3	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を提供できている。	・定期的に特性に合わせた支援方法等の研修をおこなっている。 ・支援終了後には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りや、気付いた点等を共有している。 ・日々のフィードバックや面談等を通じて、保護者から生活の様子やニーズをお聞きし、職員間で共有をしている。	・引き続き、社内研修をおこない、特性についての理解や感覚統合についての知識等を深めていく。 ・子ども達の状態や変化に気づけるよう職員間での共有や、保護者からの情報収集をより密におこなっていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援、また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援の場が少ない。	・年に1回、7月頃に保護者会で災害時対応や連絡事項の共有、プチセミナー等は開催しているが、オンラインでの開催のため、保護者同士の交流の機会がない。	・保護者会を対面で実施するなど、保護者やきょうだい同士も交流できるようなイベントをニーズに応じて今後検討していく。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。	・半年に1回の面談に加え、ご希望があれば個別で面談の実施はしているが、ペアレントトレーニングとしてのプログラムは実施していないため、情報提供の機会が少ない。	・引き続き、ご希望があれば個別面談の実施をおこなう。 ・保護者向けの研修等の情報を入手し、発信していく。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	・ご要望があれば、幼稚園、保育園への訪問や、先生に事業所へご来所いただく見学の受け入れや、他事業所等との情報交換会への参加はしているが、他のお子様と一緒に活動する機会は現在持っていない。	・引き続き、ご要望に応じて幼稚園、保育園への訪問、事業所への訪問の受け入れや、情報の共有をおこなう。 ・他のお子様との交流はニーズに応じて今後検討していく。

公表

事業所における自己評価総括表【放課後等デイサービス】

○事業所名	株式会社ルネサンス 元氣ジムJr.東戸塚		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 12月 17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 12月 17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感を持ちながら、楽しく通所できている。 (児童、保護者の満足度が高い)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が楽しく遊びながらいろいろな動きに挑戦できるような環境の設定や声掛けを徹底している。 支援中の様子を動画で保護者に共有したり、毎回フィードバックの時間を設け、口頭で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の朝礼、終礼時に子ども達の状況を職員間でしっかり共有し、より良い支援ができるように考えていく。 子ども達が楽しくいろいろな活動に参加できるようにプログラムや声掛けを工夫していく。 引き続き保護者と連携しながら支援をおこなっていく。
2	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を提供できている。	<ul style="list-style-type: none"> 支援にかかわる職員全員が児童指導員、教諭免許取得者。 定期的に特性に合わせた支援方法等の研修をおこなっている。 支援終了後には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りや、気付いた点等を共有している。 日々のフィードバックや面談等を通じて、保護者から生活の様子やニーズをお聞きし、職員間で共有をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、社内研修をおこない、特性についての理解や感覚統合についての知識等を深めていく。 子ども達の状態や変化に気づけるよう職員間での共有や、保護者からの情報収集をより密におこなっていく。
3	放課後等デイサービス計画に沿った支援をおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 半年に1回の支援計画書作成の際に、支援にかかわっている職員で子どもの様子の共有をし、モニタリングを作成している。 保護者面談後に内容の共有とともに、児童発達支援管理責任者のもと、個別支援計画書作成のための会議を実施している。 支援計画書作成後、職員全員で内容を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスの頻度を半年に1回ではなく、3ヶ月に1回など定期的に実施する。 終礼の際に、1人ピックアップして様子等について話し合う時間を作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援、また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 年に1回、7月頃に保護者会で災害時対応や連絡事項の共有、プチセミナー等は開催しているが、オンラインでの開催のため、保護者同士交流の機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会を対面で開催するなど、保護者やきょうだい同士も交流できるようなイベントをニーズに応じて今後検討していく。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 半年に1回の面談に加え、ご希望があれば個別で面談の実施はしているが、ペアレントトレーニングとしてのプログラムは実施していないため、情報提供の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ご希望があれば個別面談を実施する。 保護者向けの研修等の情報を入手し、発信していく。
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がたりていない。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ施設内の隣の部屋で通所介護施設を運営しているため、音楽や運動指導の声など、聴覚刺激が多くなっている。 トイレが介護施設と共同のため、子どもの特性によっては不便と感じる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護施設の職員と連携を取りながら、お互いのトイレの時間をずらすなど子ども達にかかる負担を減らしていけるように努める。 介護施設の職員にも子ども達の特性についての研修をおこない、理解を深めていく。